



R.I. 第 2630 地区 **高山中央ロータリークラブ**
WEEKLY REPORT

2009～2010 年度 高山中央 RC 会長テーマ 「**聞・思・修**」

会長 橋本 修 幹事 岩垣津 亘 会報委員長 長瀬 栄二郎 会報担当 下田 徳彦

創立 1991 年 5 月 20 日

事務局 高山市花岡町 1-15 丸越商事 4F

TEL:0577-36-0730/FAX:0577-36-1488

例会場 ひだホテルプラザ 3F/TEL:0577-33-4600

例会日 毎週月曜日 PM12:30～

ホームページ <http://www.takayamacrc.jp/>

< 出席報告 >

	会員数	出席会員	出席	Make-up	出席率
本日 808 回	50 名	45 名	42 名	-	93.33%
前々回 806 回	50 名	45 名	36 名	5 名	91.11%

< 点 鐘 > 会長 橋本 修
 < ソング > われらの生業

< 会長の時間 > 会長 橋本 修

熱い戦いの総選挙昨夜は遅くまで TV にくぎ付けではなかったかかと思えます。皆様方、寝不足・予想通り？予想外？いかがだったでしょうか？

先日の市民時報のチラシは“夏物売り尽くし決算大処分”というのが出ていますが一方、今年も料理パッチリ忘年会、新年会、只今内容企画中等など、いかにも高山には秋がない感じが致しますが、今年もあつという間に 3 分の 2 が済みました。明日から 9 月です。芸術の秋、スポーツの秋、食欲の秋といろいろ催し物が盛りだくさんではないかと思えます。

当クラブも、9 月 12 日に向けて着々と準備が進んでおります。27 日には出演チーム 10 チームのリーダー会議を開きました。

女子生徒のチームが半分エントリーしておりまして、記念の T シャツを作成する為に打合せに参加しました。ある会員は、張り切って寸法を聞きだしてました。華やいだ感じがします。

きっと本番は、素晴らしいパフォーマンスを披露してくれるのではと期待致しております。

さて、本日のプログラムは、R 情報委員会の例会ですが、“ロータリアンはなぜ例会に出席するのですか？”とロータリーの友、8 月号の家族に知らせたいという欄に掲載されていまして、抜粋して読みたいと思えます。

「ロータリアンはなぜ例会に出席するのですか？」

「仕事が忙しい」といつも言っているのに、例会だけには熱心に出かけて行く。そんなロータリアンを、ご家族をお持ちの方も多いと思えます。

その例会で何をしているのでしょうか。食事をして、歓談して……、楽しいひとときを過ごしているのだらうと、ご

想像になっていませんか。その通りです。でも、決して、ただ楽しんでるわけではありません。ロータリーの例会では、仕事や日常生活に役に立つ情報を入手したり、地域社会や世界中で抱えている問題について、何か少しでも役に立とうと話し合ったりしているのです。

日本でも「同じ釜の飯を食う」などと、やはり食事を共にすること、分かち合うことが、仲間としての象徴のようになっています。世界中のクラブを見ると、例会で食事をしています。食事は、本当の仲間になるための大切な儀式ともいえるのではないのでしょうか。楽しい会話をしながらの食事は、家族にとっても、お互いを理解しあうためにかげがえのないひとときですが、ロータリーのような組織、グループにとっても大切な時間です。

例会には、「卓話」と呼ばれるスピーチの時間があります。日本のクラブの場合、例会時間 1 時間のうち 30 分が卓話の時間に当てられているというのが一般的です。

卓話から得た情報を基に、実際に海外のある地域に井戸を掘ったり、学校を建てたり、という奉仕活動が実施された例もたくさんあります。自分の会社の経営のヒントになったという例や、人生の転機になったという例もあります。

ロータリアンは毎週例会に出席して、仲間とともに食事をして楽しいひとときを過ごします。それと同時に、さまざまな役に立つ情報を入手しています。例会への出席が、会費の納入、雑誌の購読と合わせて、ロータリアンの三大義務の一つとなっているのには、こんな所に理由があるのではないのでしょうか。

ロータリーが家族全員にとって身近なものになれば、共通の話題が増えることでしょう。

< 幹事報告 > 幹事 岩垣津 亘

R I 本部より

・ロータリーアン誌

・ロータリーワールド誌

国際ロータリー第 2630 地区ガバナーより

・WCS 補助金申請 受付のご案内

<本日のプログラム> ロータリー情報委員会担当例会

「ロータリーこの不思議の国の案内」 ロータリー情報委員長 伊藤正隆

「ロータリーこの不思議の国の案内」のパワーポイントを使用しての説明

7月19日会員増強セミナーでの服部芳樹カウンセラーのお話より、抜粋してロータリーについてのお話をいたします。新入会員教育向けのものですが、ロータリアンが改めて聞いても、とてもすばらしい内容となっています。(スライド数44枚より抜粋)



1972年の当時のパストガバナー前原勝樹氏が書かれた「ロータリーの入門書」の一節で、先輩にロータリーについて質問すると「だんだん判るよ」と言われただけで時間が過ぎてしまったと言っています。服部ガバナーも同じ経験で37年が経った今、自分自身が感じたことをマニュアルとして作りました。一番大事なことは「入りては学び、出でては奉仕せよ」これを実践する事がロータリアンです。そして、誰もが初めから立派なロータリアンではありません。

我々ロータリーとは理念があり、組織があり、運営があり、規則があります。理念とは奉仕の理想や超我の奉仕というもの、それを純粋に行うための組織があります。運営についてのルールもあり、奉仕の理想を追い求めるための規則も必要です。一番考えなければいけないことは「ロータリーのために何が出来るか」を考える事です。

組織について説明します。世界各国で200カ国が加盟しており、34のゾーンがあります。その34ゾーンの中に534の地区があります。これだけ広い地域にわが師わが友がいるので、視野を広げること十分出来ます。日本については3ゾーンに別れ、34の地区があります。月刊誌「ロータリーの友」でクラブ間の連携を図っています。RIの構成単位はあくまでクラブが中心(クラブ 分区 地区ゾーン RI)であり、ロータリーの組織は上意下達ではありません。以前はRIの委員会の中にあつたロータリー財団が、現在は別の組織となり、運営方法も違います。(詳しくは劔田さんより説明)

規則について説明します。RIの理事会で決議されたもので、3年に一度クラブや地区大会から上程された議案を、世界中全地区の代表議員が集まって審議するロータリーの立法機関である規定審議会で決議・採択されたものです。これがロータリー章典と手続要覧に記載され運営の規則

が決められます。この中のRI定款細則に定められたクラブ定款に従いクラブ独自の細則が作られています。運営について説明します。ロータリーとして実践する具体的活動が4大奉仕です。4大奉仕とは1.クラブ奉仕、2.職業奉仕、3.社会奉仕、4.国際奉仕であります。まず社会・国際奉仕については最近このクラブも溶け合った活動をしており、ポリオの運動や米山奨学生の援助、新世代・ロータリー財団のプログラムについて動いています。今大事にしているのが職業奉仕についてですが、日々の職業を通して社会に奉仕する事を具現化していきます。そのために4つのテストに象徴されるロータリーの倫理を守っていく必要であります。クラブ奉仕については毎週集まって例会をやる事が正にクラブ奉仕であり、4大奉仕の原点です。皆出席だった会員が最後に天寿を全うする「天寿退会」がロータリアンとしての理想です。

決議 23 - 34 ロータリー財団・クラブ定款・細則の 改定の関連性について 地区拡大増強委員会アドバイザー 劔田広喜

国際ロータリー(RI)について説明します。ロータリークラブ全体の管理組織で世界のロータリークラブを会員としています。そしてロータリーの象徴です。事業活動は大きく分けて、ロータリー財団と会員増強の2つあります。ロータリー財団の寄付について世界的に景気が低迷している中、アメリカの力が大きく影響しており、ビルゲイツの新規チャレンジ寄付については世界中から批判の声が出ました。特に日本においては寄付とは「慈愛の心」「思いやりの心」が形となったものという考え方があるので抵抗があります。このようにロータリー財団の方向性が変わってきた裏づけとして「決議23-34」があります。23とは1923年を指し、34とは第34号に上程決議された社会奉仕活動に関する指針を示します。1923年当時、個人奉仕(理論派)と団体奉仕(行動派)の意見が分



かれ、分裂の危機にありました。「決議23-34」にはRIはクラブが行う社会奉仕活動に対して口出しはしてはならないことが、記してあります。またロータリークラブが奉仕活動もするが、奉仕活動のできる人を育てることが大切であるという奉仕活動の形が採択された決議です。I serve がロータリークラブの考えで We serve がライオンズクラブの考えです。

そんな考えの中、寄付についてロータリーの精神に反しているのでは？と財団への提言に対して、RI 理事会において「決議 23 - 34」の廃案動議に至りました。それに猛反発した日本のロータリー（日本の RI 理事）が説得し廃案は逃れました。しかし過去にはこのような危機は幾度とあり、組織としても RI とロータリー財団が 2 重構造になってきました。また権力も 2 重構造になってきたため、廃案にならないように各クラブの細則の中に明文化して盛り込み、遵守していく動きが出てきて、地区の考えもクラブ細則を改訂することを推奨しています。今、日本独自のロータリー財団が誕生しました。まずは日本で集まるお金を一度プールしてから、ロータリー財団に渡そうとする動きも起きています。そして日本の独自性を出した奉仕にしていこうという流れになってきています。

< ニコニコBOX >

夏の陣も無事終了しましたが・・・今後の成り行きが大変心配です。皆が生活しやすい社会が実現できるでしょうか？

松之木 映一

昨日は関係者の皆様ご苦労さまでした。また誠にありがとうございました。これからが大変ですが、ひとまず飛騨の危機から脱したと思います。

三枝 祥一

何にもなしでニコニコへ。

永田 富次

先ほど会長より「高山には秋がない」という発言がありましたが、そんなことはありません。当店はこれからが秋本番「栗菓子」の季節です。どうか大わらわとなりますよう、宜しくご協力下さいませ。

中田専太郎

今日は担当例会です。講演で頂いたパワーポイントの催しです。私が前座で真打ちは劔田さんですので宜しくお願い致します。

伊藤 正隆

本日、早退させていただきます。すいません。

久々野 国良